

Neve 31102 Console EQ

概要

31102のEQを特徴としたNeve8068コンソールは、Guns - N-Rosesのデビューアルバム「Appetite For Destruction」のハンド・ミキシングするために使用されました。プライマス、メタリカからマイ・モーニング・ジャケットやレッド・ホット・チリ・ペッパーズのようなアーティストはスタジオでNeve8068と31102EQのはっきりとしたトーンを必要としていました。ユニバーサル・オーディオの公式ライセンスとエンドースされたNeve31102 EQプラグインは、厳しい細部までアナログのいと同じサウンドの経験を与えます。それ自身が異なったフィルター・シェイプと紛れもない輝きと刺激を完備しています。31102は、クラシック Neve EQの進化におけるもう一つのステップを提供します。3バンドのアクティブなEQとハイ/ロー・フィルターは、その姉妹製品1073と1081の間に位置する強化されたトーンを形成する可能性と特徴の複雑さを提供します。

Neve 31102/SE EQは3バンド(10、12と16kHz)のハイ・シェルビングEQと、2つのQタイプを持った6周波数(7.2、4.8、3.2、1.6、0.7と0.35kHz)のピーキングEQに加え、4周波数(220、110、60と35 Hz)のロー・シェルビングEQ、4周波数(45、70、160と360Hz)のハイパス・フィルター、5周波数(6、8、10、14と16kHz)のローパス・フィルターを通します。他の特徴は、30dBのレンジを含んだゲイン・トリム、さらにフェイズ・リバーズとEQバイパスです。またUAD Neve31102のライセンスは、より多くの事例数のためにDSPに最適化された31102SE「スペシャル・エディション」EQも含んでいます。

Neve 31102 スクリーンショット



Neve 31102 プラグイン・ウィンドウ

Neve 31102と31102SEのコントロール

インプット・ゲイン



インプット・ゲインのコントロールは、プラグイン入力のレベルを決定します。そしてプラグインのバイパス・コントロールも兼ねます。範囲は、-20dBから+10dBまでです。

インプット・ゲイン・ノブが「カチッ」と閉まるようにオフの位置にあるとき、プラグイン処理は無効になり、UAD DSP使用率は減少します。

注: (UAD-2のみ) DSPロード・ロックが無効になっているときだけ、UAD-2 DSP使用率は減少します。DSPロード・ロックが有効(デフォルト)な場合、インプット・ゲインをオフにしてもDSP使用率は減少しません。

Tips: スクリーン・ラベルの「オフ」をクリックすると、オフと前にセットされたインプット・ゲイン値の間を移動します。また、「ニープ」ロゴをクリックしてもオフと以前の設定値を切り替えることができます。

ハイ・シェルフ



ハイ・シェルフは、二重同心のノブにより、スムーズな高域イコライゼーションを行います。内側のノブはバンド・ゲインを、外側のリングは周波数、またはバンドが無効になることを選択します。

ハイ・シェルフ・ゲイン

ハイ・バンドのゲインは二重同心のコントロールの内側のノブで選択されます。時計回りに回転させると有名なニープの輝きを与えます。また反時計回りにすると高域を抑えます。

使用可能な値は約±15dBです。ノブの目盛がまっすぐ下を指している場合、ゲインの値は0です。

ハイ・シェルフ・フリークエンシー

ハイ・シェルフ・フリークエンシーは、二重同心のコントロールの外側のノブで選択されます。リング・ノブ・ポインターは、マウスでドラッグするか、有効な周波数を循環させるためにノブの上のシェルフ・シンボルをクリックして下さい。(シフト+クリックは一目盛分後退します。)

使用可能なハイ・シェルフ・フリークエンシーは、16kHz、12kHz、10kHzとオフです。

オフを選択した場合、ハイ・シェルフ・バンドは使用不可能です。オフが選択されている場合、UAD DSP使用率は減少します。

ミッドレンジ・バンド



ミッドレンジ・バンドは二重同心のノブでコントロールされます。そして、2つの帯域幅を選択し、スムーズなセミ・パラメトリック・イコライゼーションを提供します。内側のノブはバンド・ゲインを、外側のリングは周波数、またはバンドが無効になることを選択します。

ミッドレンジ・ゲイン

ミッドレンジ・バンドのゲインは二重同心のコントロールの内側のノブで選択されます。使用可能な値は約±15dBです。ノブの目盛がまっすぐ下を指している場合、ゲインの値は0です。

ミッドレンジ・フリークエンシー

ミッドレンジ・シェルビング・フリークエンシーは、二重同心のコントロールの外側のノブで選択されます。リング・ノブ・ポインターは、マウスでドラッグするか、使用する周波数を循環して選択するためにノブの上のピーク/ディップ・シンボルをクリックして下さい。(シフト+クリックは一目盛分後退します。)

使用可能なミッドレンジ・センター・フリークエンシーは7.2kHz、4.8kHz、3.2kHz、1.6kHz、0.7kHz、0.35kHzとオフです。オフが選択されている場合、UAD DSP使用率は減少します。

ハイ Q セレクト



ハイQボタンはより急なEQカーブのために、「ノーマル」からより狭い帯域幅にレスポンスを切り替えます。バンドは、デフォルトでは「ノーマル」モードです。; ボタンが「下」(より暗く)にある場合、それはハイ Q モードになっています。

Lowシェルフ



ロー・バンドは、二重同心のノブにより、コントロールされ、スムーズなシェルビング・イコライゼーションを行います。内側のノブはバンド・ゲインを、外側のリングは周波数、またはバンドが無効になることを選択します。

ロー・ゲイン

ロー・バンドのゲインは二重同心のコントロールの内側のノブで選択されます。使用可能な値は約±15dBです。ノブの目盛がまっすぐ下を指している場合、ゲインの値は0です。

選択したロー・バンド・フリークエンシーを増幅させるには時計回りにコントロールを回転させて下さい。また、減らすには反時計回りに回転させて下さい。

ロー・フリークエンシー

ロー・フリークエンシーは、二重同心のコントロールの外側のノブで選択されます。リング・ノブ・ポインターは、マウスでドラッグするか、使用する周波数を循環して選択するためにノブの上のシェルビング・シンボルをクリックして下さい。(シフト+クリックは一目盛分後退します。)

使用可能なロー・バンド・センター・フリークエンシーの範囲は35Hz、60Hz、110Hz、220Hzとオフです。オフが選択されている場合、UAD DSP使用率は減少します。

カット・フィルター



独立したローとハイ・カット・フィルターはロー・バンドの右側にある二重同心のノブでコントロールを行います。コントロールは、それぞれのカット・フィルターの周波数を指定します。

ノブ・ポインターは、マウスでドラッグするか、使用する周波数を循環して選択するためにノブの上のそれぞれのカット・シンボルをクリックして下さい。(左側は、ロー・カット、右側はハイ・カット)(シフト+クリックは一目盛分後退します。)

ハイ・カット

(青い)内側の二重同心のノブは、ハイ・カットをコントロールします。使用可能なハイ・カット・フィルターの範囲は18kHz、14kHz、10kHz、8kHz、6kHzとオフです。オフが選択されている場合、ハイ・カット・フィルターは使用不可能です。

ロー・カット

外側の二重同心のリングは、ロー・カットをコントロールします。使用可能なハイ・カット・フィルターの範囲は45Hz、70Hz、160Hz、360Hzとオフです。オフが選択されている場合、ロー・カット・フィルターは使用不可能です。

注:それぞれのノブの目盛がまっすぐ下を指している場合、カット・フィルターはオフになります。カット・フィルターがオフになっている場合、UAD DSP使用率は減りません。

フェイズ



フェイズ・ボタン(☉)は、信号の極性を逆にします。ボタンが噛み合っている(より暗い)時、信号は逆さです。通常のフェイズにする場合はボタンをオフ(より明るい)にしてください。

EQL



EQLスイッチが「イン」(より暗い)位置にある場合、イコライザーは使用中です。EQを無効にする場合には、スイッチを「アウト」(より明るい)位置にしてください。ボタンをクリックして、状態を切り替えてください。

ハードウェアの31102では、EQLスイッチが「アウト」の位置にある場合でも音はわずかに着色されています。これは、信号がその回路を通過しているという事実を示します。したがって、このスイッチの位置が「アウト」にある場合でも信号はわずかに着色されます。EQがこのコントロールでバイパスされる時、(UAD-2 DSPロード・ロックが有効になっていない限り)UAD DSP使用率は減少します。

本当のバイパスを行いたい場合、インプット・ゲイン・コントロールの「オフ」を使用して下さい。(前述の「インプット・ゲイン」を参照して下さい)

Neve 31102SE



Neve 31102SE プラグイン・ウィンドウ

概要

UAD Neve 33102SEは、UAD Neve 31102に由来しています。そのアルゴリズムは、より少ないDSP使用率で31102に非常に似た音の特徴を提供するために修正されました。DSPリソースが制限される状況でも31102のような音を得たい場合に提供されます。「黄金の耳」を持つ人は必ずしも31102のように聞こえるとは言いませんが、しかしそれでもサウンドは素晴らしく、非常に多くの状況で使用することが可能です。

31102のインターフェイスは色とモジュール名によって31102と区別することが可能です。31102SEのバックグラウンドはダークブルーの代わりにブラックです。そしてインターフェイス・パネルの右下にあるモジュール名に「SE」と表記されます。

Neve 31102SE コントロール

Neve 31102SEのコントロールは、Neve 31102と全く同じです。Neve 31102SEコントロールの説明については、前述「Neve 31102 and 31102SEコントロール」を参照して下さい。

Neve 31102レイテンシー

Neve 31102 (31102ではない)は、驚くほど音のクオリティを上げるのを容易にするために内部でアップ・サンプリングする技術を使用しています。このアップ・サンプリングを行う技術は他のUADプラグインよりもわずかに多いレイテンシーが発生します。あなたはこれを補正するためにDelayComp、またはTrackAdvで「サンプル」パラメータに値を入力する必要があるかもしれません。レイテンシーとその補正に関しては、他のUAD Neve EQと同じです。

詳細については、「アップ・サンプリングしたプラグインを補正する」を参照して下さい。

Neve 31102SEは、アップ・サンプリングされないので、追加のレイテンシー補正を必要としません。

注: ホストアプリケーションが、信号経路中のいたるところでプラグインのレイテンシーの補正をサポートする場合、またはそれが出力だけで使用される場合、Neve31102を補正する必要はありません。詳細については「ホストPDCインプリメンテーション」を参照して下さい。



Neve 31102 EQ ハードウェア・モジュールと31102をインストールした Neve 8068コンソール

Neve1073、1081、31102、88RSと33609各製品のすべての視覚、聴覚への引用と

AMS-NEVEの商標のすべての使用はAMS-Neve社より書面による許諾がなされています。